

第 11 回 一般社団法人日本生物物理学会 講師派遣事業 開催報告

開催日	2018 年 10 月 5 日
学校名（場所）	長野県屋代高等学校
授業の名称	ATP 合成酵素のはなし—面白いを突き詰めると学問は分野を越境する—
講師名	野地 博行 氏 (東京大学工学系研究科教授)
参加者	高校 1 年生 (理数科 40 名)
生徒さんの感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図や動画がたくさんあって、細胞内でどのようなことが起こっているかが分かってよかった。細胞内で起こっていることを理解するために実験していく過程が面白そうだった。 ・ 結果が出るまで実験を続ける姿勢がほんとにすごいと思った。自分で考えることの大切さがよく分かった。仮説をたてることが、新発見への第一歩だと分かった。今、当たり前前のことが当たり前になるまでの大変さが分かった。色々な考え方に触れることが大切だと分かった。 ・ 授業で言葉だけは習っていた ATP 合成酵素についてこんなに深く学べてとても良かった。 ・ 研究者という仕事は毎日机に向かって物事を考え続けるものだと思っていたが、先生が「研究者という仕事にはコミュニケーション能力が不可欠」と言っていたことが印象に残った。 ・ ATP 合成の仕組みと水力発電の仕組みが似ていることが理解できた。 ・ 全てを信じるのではなく疑って物事をみることを大切にしたいと思った。また、既にあるものの組合せで新しいものが作れることを知った。 ・ 発見、発明は自由な場で偶発的に起こるという言葉に感動した。研究は一人で行うものではなくいろんな人とコミュニケーションをとってクリエイションの場を演出することが大事だと分かった。 ・ バカとよそ者の意見に耳を傾けろという言葉が印象に残った。これからは幅広い視点で物事を見ていこうと思った。

